

2017年度入学式祝辞

2017年4月1日

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、ご参集の保護者の皆様にも、心からお祝い申し上げます。名古屋経済大学は、本日、学部^{たきまこと}に620名、大学院^{ひびのりょうたろう}に59名の入学者を迎えることができました。春の光が輝き、桜も開花したこの良き日に、犬山市教育長^{たきまこと}の瀧誠様、犬山商工会議所会頭^{ひびのりょうたろう}の日比野良太郎様、尾関学園^{おぜきとしなが}高等学校校長の尾関俊長様、県立犬山高等学校^{おりべまさひさ}教頭の織部匡久（おりべまさひさ）様はじめ多くのご来賓の方々のご臨席を得て、ここに入学式を挙行できることを大変うれしく思います。

新入生の皆さんは、希望に胸ふくらませ、また、新しい環境の下で心地よい緊張感を抱きながら、ここに集まっていることと思います。是非、この緊張感を4年間あるいは大学院の方は3年間ないしは2年間の間忘れないようにして、学習、研究に励んでいただきたいと思います。人生は80年、90年とあるでしょうが、大学生時代の4年間は、生涯忘れることのできない、1年1年を具体的に思い出すことができる貴重な年になりますので、是非、大事に送っていただきたいと思います。

多くの大学において、学長は、入学式における祝辞の中で新入生に向かって、「今日からは高校時代と違って、諸君を大人として扱うので、責任感を持って行動をするように」と話しかけるでしょう。

しかし、私はあえて申し上げますが、名古屋経済大学は、新1年生を大人としては扱わず、4年間をかけて立派な大人に育てていくための、第一歩と位置付けたいと思います。111年前に市邨学園をいちむらよしき設立した市邨芳樹先生が述べたとおり「一に人物二に伎倆」を本学の建学の精神としており、人物教育を重視してきました。新入生の皆さんはまだ、大人としての発展途上にあり、人として育つべきことがたくさんあると考えています。人としての常識を持ち、社会で尊敬される人物に育つように、名古屋経済大学では、20－25名のクラス制をとり、日常生活の送り方も含めて教育していくつもりでありますので、覚悟のほどをよろしくお願いいたします。

ところで、現在日本の大学は、学生に何をどのように教えるべきかで試行錯誤を繰り返しております。それは、日本社会が求める人材が、かつてとは大きく異なってきたからであります。従来の秀才と言われた、既存の知識をよく理解し、それを具体的社会に適用するという人材では、現在の日本社会に通用しないということです。

日本の近代化の画期である明治期には欧米に倣い、第二次世界大戦後はアメリカに倣うというお手本がありました。ところが、1979年にジャパン アズ ナンバーワンと言われ、日本の企業経営が世界一とされるようになってからは、若干の紆余曲折はありますが、日本には無条件にお手本になる国がなくなったのです。したがって、すぐに使える知識がなくなりました。さらに、最近の科学の急速な発展は社会構造を変革し、グローバル化を急速に進行させてきました。たとえば、最近、ある宅配便業者が運転手不足で事業を縮小するということが、話題になりましたが、他方で、2020年までに自動運転技術が実用化されると言われています。少なくとも、すでに高速道路を隊列を組んで時速100キロ以上で運転させる技術は完成していると聞いています。そうすると、現在不足している運転手が数年後にいなくなるのです。イギリスのオックスフォード大学で人工知能（AI）を研究していたマイケル・A・アズボーン准教授が2013年に、今後10－20年でアメリカの総雇用の47%の仕事が自動化されるリスクが高いと述べたことは有名であります。また、企業も世界戦略を誤ると直ちに存亡の危機に陥ることになります。ここにお集まりの保護者の方であれば、しばらく前

までは、東芝やシャープにお子さんの就職が決まったら、まずは、定年まで安泰と思われたのではないのでしょうか。今では、シャープは台湾の企業に吸収され、東芝は存亡の危機にあります。イギリスのEU離脱やトランプ米大統領の登場などを見れば、第二次大戦後、比較的順調に進んできた世界の市場経済の拡大が大きな曲がり角に立っていることは誰の目にも明らかです。そして、その経済の中心が、アメリカからアジアに移行しつつあることも明らかであります。

このような時代にあっては、皆さんが社会に出てから既存の知識が役に立つのはほんのわずかであると思われれます。したがって、皆さんが大学で習得すべき能力は、急速に展開する社会に、柔軟にかつ、勇気を持って適応していく能力であります。本学では、そのような能力を身につけるために、様々な授業を用意しています。その一つに、この地域をキャンパスと位置づけ、学外で学習をする「体験型授業」というものがあります。たとえば、犬山に多く存在する観光資源をいかにうまく利用して観光客を増やすかを考えるとか、田んぼを借りて稲作をしながら日本の農業の将来を考えるなど、多数用意しています。また、社会に出て仕事をすることを実際に体験するために、インターンシップを全員に義務付けています。

*少し余談になりますが、今日と明日は犬山祭りがおこなわれ、ユネスコ無形文化遺産に登録されました山車^{やま}が13台、街中を練り歩きます。からくりは日本一ですし、愛知のモノづくりの原点でもあります。夜の提灯も見ごたえがあります。また、先ほど明治時代について触れましたが、明治時代の先人がいかにして欧米に倣おうとしたかは、同じく犬山にある明治村を訪ねると実感することができます。欧米に倣うために衣食住を欧米化したことが実感できます。学生の皆さんはもちろん、地方からおいでの保護者の方も是非、見えてお帰りなることをお勧めいたします。

話を戻しますが、急速に進むグローバル化が経済の中心をアジアに移しているのですから、皆さんはアジアの中で活躍できる能力を身に着ける必要があります。皆さんが卒業されるときには、間違いなく、多くのアジアの都市が日帰り出張圏になっています。本学には、多くのアジアからの留学生が学んでいますし、今年度も8か国から159名の留学生を迎え入れることができました。このことは、これからはグローバルな社会に違和感を持つことなく、諸外国の人たちと協力しながら新しい世界秩序を作っていく必要があるという確信に基づいて、本学が、積極的に留学生を受け入れてきた結果で

あります。日本人学生は、積極的に留学生と交流をし、国際感覚を磨いていただきたいと思います。また、留学生の皆さんは日常生活で困ったことがあったら、迷わず日本人学生の援助を求めてください。このことが日本人学生のためにもなるのです。本学は日本人学生と留学生が交流するプログラムもたくさん用意しています。たとえば、ベトナム人留学生の自宅に日本人学生がホームステイをする企画などは好評であります。

あらためて、新入生の皆さん、本学の教職員は皆さんの入学を心から歓迎するとともに、皆さんが本学の学習を通じて立派な社会人となるように、全力でサポートする決意であることを宣言して、私の祝福の言葉といたします。本日は本当におめでとうございました。